

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮崎県 一ツ瀬川農業用水広域水道企業団

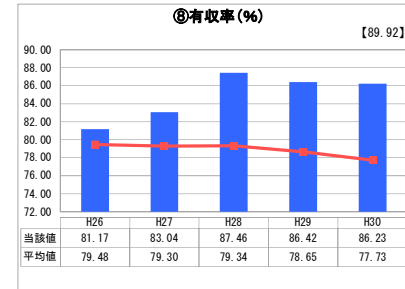
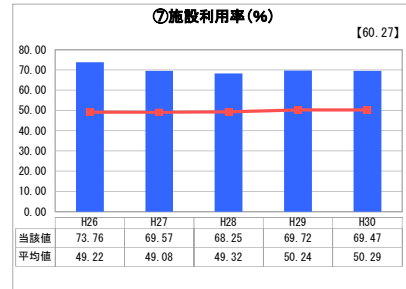
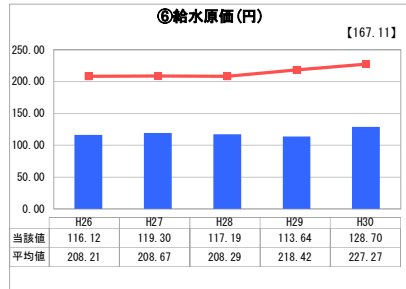
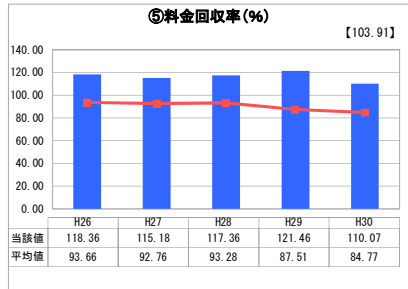
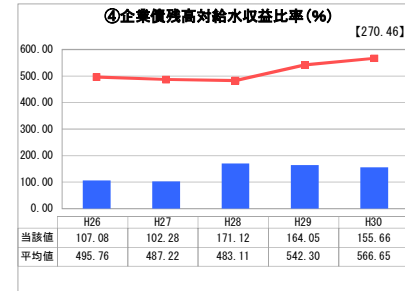
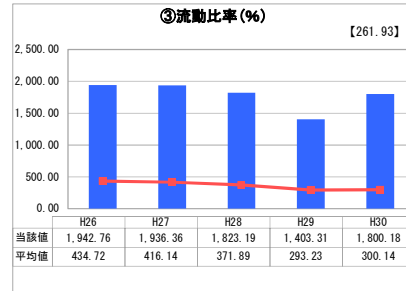
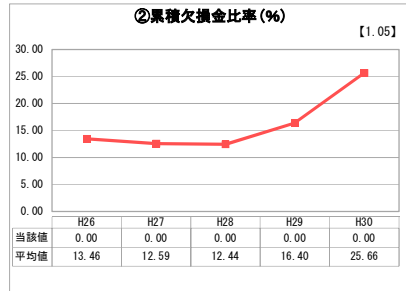
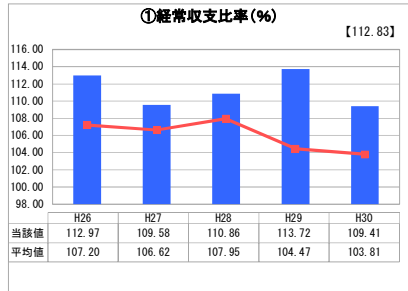
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	民間企業出身
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	84.90	8.87	3,088	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
6,491	66.80	97.17

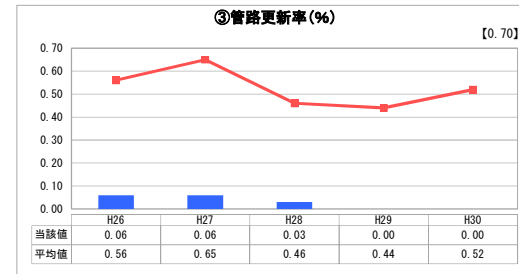
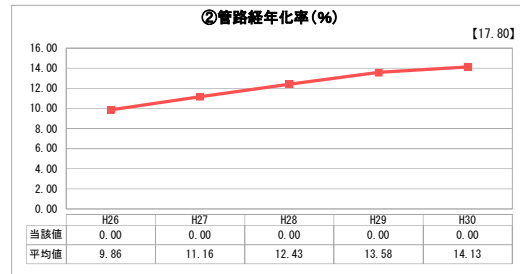
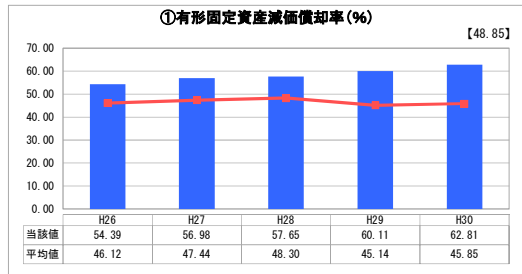
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」については、100%以上で推移し、類似団体と比較しても高い水準にあり良好です。収益のうち長期前受金戻入（現金収入を伴わない収益）が4割を占めています。「⑤料金回収率」についても100%を超えており、現時点では経営の健全性が保たれています。

「③流動比率」については、100%を超えていることから、支払能力には問題ありません。

「④企業債残高対給水収益比率」については、当企業団は県から譲り受けた施設で事業を運営しており、拡張時の借入れがないため、類似団体と比べ低くなっています。今後も施設の更新等の財源に企業債が考えられますので、上昇傾向が予想され注意が必要です。

「⑥給水原価」については、昨年度に比べ15円増加しています。これは修繕費及び委託料等の増加によるものです。今後の見通しとして、経常費用は若干の増加、また給水収益（有収水量）の減少が見込まれ、給水原価の増加が上回っており、適正な規模と考えられます。

「⑦施設利用率」については、近年横ばいの状態で平均を上回っており、適正な規模と考えられます。

「⑧有収率」については、類似団体と比較して高い水準で推移していますが、今後も漏水調査を継続的に行い、更なる有収率の向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」については、年々増加傾向にあり、施設の老朽化が進んでいます。

「②管路経年率」については、管路の経過年数が耐用年数に達していないため、0%となっております。最初に布設した管路が昭和57年度に施工されており、あと4年で耐用年数を迎えます。

「③管路更新率」については、類似団体と比較して低くなっています。近年は道路改良に伴う管路布設替工事が主となっております。今後はアセットマネジメントの活用を図り、将来老朽化を迎える管路を計画的に更新し、特に基幹管路の更新を優先してまいります。

全体総括

当企業団の水道事業は、現時点では良好と判断されますが、将来は給水人口等の減少による給水収益の減少、企業債償還の増加が懸念されます。今後は、更なる経常節減に努め、更新工事の財源を確保し、施設の長寿命化対策及びアセットマネジメントの活用を図り、経営戦略を策定し計画的に事業を運営する必要があります。経営戦略については、令和2年度に策定します。